

第474回鉄鋼流通問題懇談会

2026年7月22日（水）14：30

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - （1）地区の状況
 - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
 - 東京、大阪、東北、新潟地区概況報告
 - （2）総括：井上全鉄連会長
3. 意見交換
4. テーマ「サイバーセキュリティについて」
5. 総括：赤木鉄流懇会長
6. 次回会議予定

2026年10月21日（水）14：30～ 於：茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

次回テーマ：「人材確保について」（採用・離職率低下に向けた取り組み等）

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	エムエム建材
1. 需給動向(景況感)	国内の鋼管需給と景況感は内外需ともに力強さを欠き、全体として弱含みの一進一退で推移。建設向け（土木・建築）は資材費高騰や人手不足で停滞しているが、生産用機械、汎用・業務用機械、四輪生産台数とも増加基調にあり。 また、半導体・エネルギー関連など特定分野でも底堅い需要が見られる。 価格面では原材料・諸コストアップに伴うメーカー、流通値上げもあり、市況は強含みで推移。	2026年5月末薄板三品在庫（速報値）は、前月比2.8%増の399万トンとなり、2ヶ月連続で400万トンを下回る結果となった。在庫内訳はメーカー在庫が前月比4万8千トン増の172万5千トン、問屋在庫が同4万9千トン増の82万2千トン、コイルセンター在庫が同1万2千トン増の144万6千トンとなった。在庫率は2.90ヶ月となり前月比0.06ポイント減少した。 荷動きが低調な中、数量の纏まった案件では各社数量を求めて激しい価格競争となり、安価な販売も見受けられる状況。販売側の値上げアナウンスに温度差が見られ、市況は緩やかなペースでの上昇にとどまっている。	全国厚中板在庫（2026年5月末）は344千トンで前年同月比97.7%となった。4月～5月で3千トン増加したものの、2026年に入り5ヶ月連続で340千トン台で推移中。在庫率は全国ベースで前年比267.9%となり、適正在庫率と言われる200%を大きく上回っている状況。 建機：国内やマイニング向けは依然低迷も、欧米向け中心に海外は堅調へ回復基調。 産機：外需を中心に設備投資意欲は総じて旺盛。 建築：建設コスト高騰継続や人手不足により計画物件の中止や順延、見直しが行われており、需要低迷続く。 造船：好調も人手不足や機器調達遅延による建造ピッチ抑制が継続。 全般的に力強さを欠く中でも、一部内外需指標に改善が確認されつつあるが、ナフサ関連では現状致命的な影響は出ていないものの、引き続き今後の中東情勢の動向を注視する必要あり。	【棒鋼】普通鋼溶炉工業会発表の2026年5月の国内鉄鋼用小型棒鋼の出荷量は45.8万トンとなり前年同月比で▲9.3%。2か月連続でマイナスとなった。また、同会より公表された2026年度の国内鉄鋼需要予測は前期実績比2.2%減（▲6.6万トン）の566万トンとしており、引き続き600万トンを割り込む低水準の厳しい環境が続く見込み。一方で原料スクラップの高止まりや諸コストの高騰により、鉄筋市況は強含みで推移している。 【形鋼】形鋼メーカーは強気な値上げを繰り返しており、市中価格も断続的な上昇傾向にある。需要環境は建築、土木共に低水準であり、且つ、5月は季節性要因（GW）による稼働日減も響き苦戦を強いられていた。6月は回復基調ではあるが、まだ十分な価格転嫁が行われていない中、収益改善のための値上げ実施が喫緊の課題となっている。
2. 需要産業動向	【建築土木】26年4月の新設住宅着工戸数は、前年同月比9.0%増の6万2千戸となった。内訳は、持家は1万6千戸で同19.9%増、貸家は2万9千戸で同117.7%増。分譲住宅も1万6千戸となり同3.7%増となった。 【自動車】26年5月の国内新車販売台数は30.6万台で前年同月比2.7%増。乗用車は25.2万台で累計前年同期比3.3%増、軽自動車は8.9万台で同3.2%減となった。 【建産機】5月の建設機械出荷金額は、内需は8.1%減少の645億円、外需は13.2%増加の2,138億円となった。その結果、内需は2か月連続の減少、外需は7か月連続の増加。総合計では7.4%増加の2,783億円となり、7か月連続の増加となった。 外需地域別では9地域中4地域が増加、その中でも欧州、鉱山機械が好調な中南米が大きく増加した。 【造船】26年4月末の手持ち工事は2,922万総トンで前月比0.4%の減少となった。	2026年5月の自動車国内販売は33万3千台（前年同月比2.8%増）と2ヶ月連続のプラス。乗用車が25万2千台（同3.3%増）、トラック5万3千台（同0.6%減）となった。 5月の民生用電気機器の国内出荷金額は、2,479億円（同8.6%増）と9ヶ月連続の増加となった。ルームエアコンは9ヶ月連続のプラス、電気冷蔵庫は同2ヶ月連続のプラス、電気洗濯機は4ヶ月連続のマイナスとなった。民生用電気機器全体では、5か月連続の二桁増となったルームエアコンが牽引し、前年同月を上回った。 国土交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は5万8千戸（同33.9%増）と2ヶ月連続のプラスとなった。持家、貸家、分譲住宅ともに増加した。	【造船】日本船舶輸出組合がまとめた2026年5月末時点の手持ち工事は602隻・2,927万総トンで、4月末と比較し5万総トン増加、25年の輸出船の竣工量に相当する輸出船通関実績を基準にすると手持ち工事はおよそ3.5年分。LNG船、自動車運搬船、防衛関連が特に好調だが、人手不足の課題あり。 【建築】2025年度の鉄骨需要は前年比6.5%減の342万トンとなり、3年連続で400万トン割れ。データセンターや物流倉庫需要は旺盛だが、住宅着工戸数は減少が続く。2025年度は71.1万戸まで減少し、かなり低水準。人手不足や建設コスト高騰で工機の長期化/物件の見直しも常態化。 【建機】2026年5月の建機出荷金額は国内外合計2,783億円で、7ヶ月連続で前年度を上回る。2025年度の建機出荷金額は、国内・輸出ともに前年比▼3%程度の微減となったが、2026年度の国内向けは安定した公共投資等に支えられ微増（対前年+1%）で推移する見通し。海外は、米国の関税影響もあるものの、米国内での投資需要を見込むことに加え欧州向けが回復して微増、3年ぶりにプラスに転じる見込み。 【産機】2026年5月の工作機械受注金額は、前年同期比37.4%増となり、5ヶ月連続で20%超の増加を記録。AI関連の他、航空宇宙などの分野が好調。今後も当面は自動化・省人化ニーズ等を背景とした需要回復の動きが期待される。	【棒鋼】国交省発表の5月新規住宅着工戸数は57,877戸で前年同月比+33.9%となった。そのうちマンションは6,575戸で前年同月比+37.6%、戸建て住宅は9,824戸と+38.7%となった。 【形鋼】国交省発表の着工統計から推定される5月鉄骨需要量は25.7万トンとなり、前年同月比で▲11.6%となり、対前月でも▲8.0%となった。
3. 輸出動向	2026年5月度鋼管輸出量 継目無鋼管：1万9,279トン（前年同月比0.9%増） 溶接継ぎ鋼管：9,691トン（前年同月比32.1%減） 2026年5月度鋼管輸入量 継目無鋼管：1,025トン（前年同月比17.1%減） 溶接継ぎ鋼管：8,806トン（前年同月比14.1%減）	2026年5月の薄板三品輸入量は21万9千トン（前年同月比26.8%減）であった。主要製品別では熱延が8万5千トン（同31.0%減）、冷延が6万1千トン（同18.1%減）、亜鉛めっきが7万4千トン（同28.2%減）となった。5月末の岸壁在庫は13万2千トンとなり、前月比で8千トン減少した。 台湾、韓国、中国共に全品種前年同月比で減少。特に中国材の減少が顕著で、AD関税が適用される亜鉛めっきについては前年同月比で90%近い大幅減少となった。韓国材、台湾材についても枠がタイトで、日本向けの輸出量については現状維持という姿勢。	2026年5月の厚板輸入量は3.9万トン（前年同月比▼21.4%）で、2ヶ月連続の減少。 韓国からの輸入量：3.2万トン（前年同月比▼4%） 中国からの輸入量：0.6万トン（前年同月比▼61.3%） 台湾からの輸入量：0.1万トン（前年同月比▼14.3%） 2026年5月の厚板輸出量は19万トン（前年同期比▼8.6%）で、2ヶ月ぶりの減少。 韓国への輸出量：5.6万トン（前年同月比▼1.9%） 中国への輸出量：3.7万トン（前年同月比+1.1%） 台湾への輸出量：2.3万トン（前年同月比▼32.3%）	【輸出】 形鋼：58.7千トン（前月比+38%、前年同月比+29%） 棒鋼：17.3千トン（前月比±0%、前年同月比+62%） 【輸入】 形鋼：5.7千トン（前月比+48%、前年同月比▲312%） 棒鋼：3.3千トン（前月比+40%、前年同月比+381%）
4. 海外市場動向	26年6月の平均WTIは84.81ドル/バレルとなり、前月比▲63ドル（▲14.1%）。 直近の原油価格は、米国によるイランへの追加攻撃など中東情勢の緊迫化を背景に1バレル＝70～76ドル台へ反発している。市場では、年内の供給回復を見込んで60～80ドル水準を予想する声と、地政学的リスクによる再騰を警戒する見方が入り交じっている。 弱気（価格低下）のシナリオとしては米国エネルギー情報局（EIA）や主要金融機関は、ホルムズ海峡の輸送正常化やOPECプラスによる継続的な増産を予想し、年末に向けて1バレル＝60ドル～80ドル台へ低下すると予測。 強気（価格上昇）のシナリオとしては、米・イラン間の和平協議の難航や、イランによる海上輸送への脅威といった地政学的リスクが再燃した場合、再び100ドル台暴走や急騰を招く可能性もある。	世界鉄鋼協会がまとめた世界70カ国の5月の粗鋼生産量は前年同月比0.3%減の1億5,790万トンとなり、前年同月を下回った。1～5月累計では前年同期比で0.7%減となった。 5月の中国粗鋼生産量は前年同月比で2.7%の減少。 各国熱延市況は軟調に推移。中国国内の市況は主原料コストの上昇や春需への期待感から5月中旬にかけて上昇基調で推移したものの、その後は南部の梅雨入りによる需要減少を受けて再び下落した。 粗鋼生産量は過去5年間で最低水準である一方、需要低迷により在庫は依然高水準で推移しており、継続的な市況上昇には期待できない状況が続く。	中国は、5月の小売り売上高は前年同月比▼0.6%。前年割れは22年12月以来。自動車の減少率が16.1%と前月の15.3%から拡大。鉱工業生産は5月は4.5%増。固定資産投資は、1～5月合計で前年同期比▼4.1%。不動産開発投資が▼16.2%と大幅下落。景況感(PMI)は50.3（6月）と前月比0.3ポイント上昇、ハイテク産業が53.5と好調。6月の自動車生産276万台、販売281万台、輸出は103.7万台（+75.1%）。中国鉄鋼市況は、国内需要不振（不動産不況長期化や自動車生産伸び悩み）や季節要因陰により下押し。5月の粗鋼生産は8,436万トン（前年同期比▼2.7%）、1～5月累計で4億1,553万トン。	2026年5月における中国の粗鋼生産量は8,436万トン（前年同月比2.7%減）。6月の不需要期入り後も粗鋼生産量は高水準を維持しており、加盟重点企業における6月上旬の粗鋼日産量は前旬比+3.8%と年産10億トンペースを維持している。鋼材輸出量については、1,034万トン（同2.2%減）と前年水準を下回っているものの、前月比では+8.9%と増加に転じている。具体的な減産指示に欠ける状況下、粗鋼生産量の減少幅は限定的。市況については、長期化する不動産需要の低迷が鋼材在庫量の増加に拍車をかけており、5月中旬には2022年以来、最高水準となる1,877万トンを記録した。需給バランスの悪化から安価な同国材がアジア市況の下押し圧力となっている状況に変化はない。ベトナム市況においては、2026年1～5月の累計粗鋼生産量は前年同期比+26.4%の大幅増を記録しており、公共投資の拡大を背景に鉄鋼需要は堅調に推移している模様。

鉄鋼流通問題懇談会（2026年7月）

発表者 発表項目	メーカー J F E スチール
1. 需給動向（景況感）	・6月の日銀短観では、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）の大企業・製造業の指数が、前回（4月）調査比+5の+22と、良化した形となった。先行きは▲5の+17と、慎重な見通しとなっている。 ・家計部門では、5月の小売業販売額が前年同月比+5.0%と2ヵ月ぶりの減。総消費動向指数は+1.3%と21ヵ月連続の上昇。 ・製造部門では、5月の四輪車生産が前年同月比▲1.2%と4ヵ月ぶりの減少。5月機械受注（民需）は前月▲12.4%と2ヵ月ぶりの減。 ・建築部門では、5月の全建築物建築着工床面積が728万㎡（前年同月比4.0%）となり、2ヵ月ぶりの増。 （海外） 世界経済はAI関連投資や財政・金融政策に支えられ成長が続く見込みであるが、中東情勢による影響は継続注視が必要。 米国：中東影響は限定的で、AI関連の巨額の投資、底堅い個人消費等が寄与し、底堅い成長が続く。 欧州：エネルギー価格上昇や消費者信頼感の低迷が重しとなり、財政面の緩和策はあるものの成長の勢いは弱含み。 中国：米国向け輸出における関税率の低下やインフラ投資の拡大が成長を支える一方、中東紛争や不動産不振、消費支援策の縮減が成長を下押し。 <国内鉄鋼需給> （生産）・5月の粗鋼生産（速報）は前年同月比1.6%増の694万トンで2ヵ月連続の増。 （出荷）・5月の普通鋼国内向け出荷は前年同月比0.02%増の283万トンで4ヵ月連続の増。 （在庫）・5月末の普通鋼鋼材国内在庫は519万トンと前月末比4ヵ月ぶりでの増加。 ・5月末の薄板3品在庫は399万トン（前年同月比▲1万トン）で2ヵ月ぶりの増。 ・5月末の厚板シャー在庫は34万トン（前年同月比▲1万トン）で2ヵ月ぶりの減。
2. 需要産業動向	〔建 築〕・5月の新設住宅着工戸数は5.8万戸（前年同月比33.9%）で2ヵ月連続の増。持家・貸家・分譲いずれも増。 ・5月の非住宅着工床面積は261万㎡（前年同月比▲26.2%）で4ヵ月連続の減。使途別では、事務所で増、店舗・工場・倉庫で減。 〔自動車〕・6月の国内販売（輸入車除く）は45.0万台（前年同月比▲1.9%）で3ヵ月連続の減。 ・6月の完成車輸出は29.6万台（前年同月比▲1.8%）で3ヵ月連続の減。 ・5月の四輪車生産は62.1万台（前年同月比▲1.2%）で4ヵ月ぶりの減。 〔造 船〕・5月の造船受注量は66.2万GT（前年同月比▲25.1%）。手持工事量は2,927万GT（前月末比0.2%増）。
3. 輸出入動向	〔輸 出〕・5月の全鉄鋼輸出は238万トン（前年同月比▲5.7%）で7ヵ月連続の減。向先別では、韓・米国向け増、中・ASEAN向けで減。 〔輸 入〕・5月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は31.2万トン（前年同月比▲24.6%）で9ヵ月連続の減。
4. 海外市場動向	・5月の世界粗鋼生産（推計含む）は1億5,790万トン（前年同月比▲0.3%）で9ヵ月連続の減。 ・5月の中国粗鋼生産（速報）は8,436万トン（前年同月比▲2.7%）で13ヵ月連続の減。 ・5月の中国鋼材輸出（速報）は1,034万トン（前年同月比▲2.2%）で5ヵ月連続の減。 ・中国市中在庫は、7月10日時点で1,180万ト（前年同期比+22.6%）。粗鋼は減少傾向にあるものの在庫は高位。